

## 平成28年度 水道事業ガイドライン業務指標

所沢市の水道事業は、安全な水の安定供給により市民生活と産業活動を支えるため、災害に強いライフラインの構築に向けた水道施設の整備を進めるとともに、施設の維持管理や水質検査を適切に実施しています。

この度、平成28年度 of 取組内容につきまして、日本水道協会が策定した水道事業ガイドラインを用いて、標準的なツールにより客観的に分析した業務指標を作成いたしました。

なお、当該ガイドラインは平成28年3月に改正されたため、平成26年度以前とは異なる算定式で求められた項目と、新たに追加された項目が複数生じています。

これに該当する項目は「－」をもって表示しています。

これからも市民の皆様にご安心してご利用していただくため、水道事業の業務状況を公開いたします。

### 業務指標の分類・区分

目 標	分 類	主な指標内容	区 分	項目数
A)安全で良質な水  水道水の安全性をより一層高め、良質な水道水を供給します。	運営管理	・水源から給水栓までの水質監視、管理 ・原水水質に適した浄水処理 ・適切な水質検査の実施と検査結果	A-1) 水質管理	9
			A-2) 施設管理	5
			A-3) 事故災害対策	2
	施設整備	・給水栓における水質の向上に向けた管路の維持管理	A-4) 施設更新	1
B)安定した水の供給  いつでもどこでも安定的に水道水を供給します。	運営管理	・地盤沈下防止と地下水の利用状況 ・施設の運用状況と維持管理 ・迅速な事故対応と適切な措置	B-1) 施設管理	17
			B-2) 事故災害対策	11
			B-3) 環境対策	6
	施設整備	・水道施設の強靱性の確保と推進 ・迅速な事故対応と適切な措置	B-4) 施設管理	2
			B-5) 施設更新	5
			B-6) 事故災害対策	16
C)健全な事業経営  健全かつ安定的な事業経営を継続します。	財 務	・効率性、経済性を考慮した業務運営	C-1) 健全経営	27
	組織・人材	・職員の能力の向上 ・水道技術の継承の促進	C-2) 人材育成	7
			C-3) 業務委託	2
	お客様とのコミュニケーション	・お客様ニーズの把握と情報公開の促進	C-4) 情報提供	3
			C-5) 意見収集	6

目標	分類	区分	番号	業務指標名	単位	計算式	26年度	27年度	28年度	指標説明	数値説明	旧コード		
安全で良質な水	運営管理	水質管理	A101	平均残留塩素濃度	mg/L	残留塩素濃度合計/残留塩素測定回数	—	0.47	0.47	給水栓での残留塩素濃度の平均値を表したものの	低い方が望ましい	1106		
			A102	最大カビ臭物質濃度水質基準比率	%	(最大カビ臭物質濃度/水質基準値)×100	—	20.0	40.0	給水栓でのカビ臭物質最大濃度の最大値の水質基準値(0.00001mg/L)に対する割合を示したものの	低い方が望ましい	1105		
			A103	総トリハロメタン濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の総トリハロメタン濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	44.0	37.0	36.0	給水栓での総トリハロメタン濃度最大値の水質基準値(0.1mg/L)に対する割合を示したものの	低い方が望ましい	1107		
			A104	有機物(TOC)濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の有機物(TOC)濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	33.3	36.7	33.3	給水栓水で水質基準の値である3mg/Lに対する最大有機物濃度の割合を示したものの	低い方が望ましい	1108		
			A105	重金属濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の当該重金属濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	—	0.0	0.0	給水栓における6種類の重金属の基準値に対するそれぞれの最大濃度の割合を平均値で示したものの	低い方が望ましい	1110		
			A106	無機物質濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の当該無機物質濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	—	29.3	29.4	給水栓における6種類の無機物質の基準値に対するそれぞれの最大濃度の割合を平均値で示したものの	低い方が望ましい	1111		
			A107	有機化学物質濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の当該有機化学物質濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	—	0.00	0.00	給水栓での7種類の有機化学物質濃度の基準値に対するそれぞれの最大濃度の割合を示したものの	低い方が望ましい	1113		
			A108	消毒副生成物濃度水質基準比率	%	[(Σ給水栓の当該消毒副生成物濃度/給水栓数)/水質基準値]×100	—	26.7	40.0	給水栓での5種類の消毒副生物の基準値に対するそれぞれの最大濃度の割合を平均値で示したものの	低い方が望ましい	1114		
			A109	農薬濃度水質管理目標比	—	max Σ(各低木検査時の各農薬濃度/各農薬の目標値)	0.000	0.000	0.000	給水栓で各農薬の管理目標値に対するそれぞれの最大濃度の割合を対象農薬数で除したものの	低い方が望ましい	1109		
		施設管理	A201	原水水質監視度	項目	原水水質監視項目数	96	96	96	原水監視の取組状況についての指数(年1回以上実施項目数)で、水質管理水準を表す指標	高い方が望ましい	1101		
			A202	給水栓水質検査(毎日)箇所密度	箇所/100km <sup>2</sup>	給水栓水質検査(毎日)採水箇所数/(現在給水面積/100)	7.4	7.4	7.4	給水区域100km <sup>2</sup> 当たりに対する毎日行う水質検査箇所数を示し、水質管理水準を表す指標	高い方が望ましい	1102		
			A203	配水池清掃実施率	%	(5年間に清掃した配水池有効容量/配水池有効容量)×100	—	68.5	87.0	5年間に清掃した配水池容量の割合を示し、安全で良質な水への取組み度合いを表す指標	高い方が望ましい	5002		
			A204	直結給水率	%	(直結給水件数/給水件数)×100	72.6	73.1	73.3	受水槽を経由せず直接給水される件数の割合を示し、受水槽管理の不備に伴う衛生問題などに対する取組み度合いを表す指標	高い方が望ましい	1115		
			A205	貯水槽水道指導率	%	(貯水槽水道指導件数/貯水槽水道数)×100	0.0	0.0	0.0	貯水槽水道に対する調査・指導の割合を示し、貯水槽水道への関与度を表す指標	高い方が望ましい	5115		
		事故災害	A301	水源の水質事故件数	件	年間水源水質事故件数	0	0	0	1年間の水源の水質事故件数を示し、水源の突発的水質異常のリスクがどれだけあるかを表す指標	低い方が望ましい	2201		
			A302	粉末活性炭処理比率	%	(粉末活性炭年間処理水量/年間浄水量)×100	—	—	—	原水水質の悪化、水質事故などに、いかに対応したかを表す指標	低い方が望ましい	1116		
		整備	更新	A401	鉛製給水管率	%	(鉛製給水管使用件数/給水件数)×100	0.01	0.01	0.01	鉛製給水管の解消に向けた取り組みの進捗度合いを表す指標	低い方が望ましい	1117	
		安定した水の供給	運営管理	施設管理	B101	自己保有水源率	%	(自己保有水源水量/全水源水量)×100	27.3	27.7	27.9	水道事業者が管理している地下水など自己所有の水源水量の割合を示し、水源運用の自由度を表す指標	高い方が望ましい	1004
					B102	取水量1m <sup>3</sup> 当たり水源保全投資額	円/m <sup>3</sup>	水源保全に投資した費用/年間取水量	—	—	—	水源保全の取り組み状況を表す指標	—	1005
B103	地下水率				%	(地下水揚水量/年間取水量)×100	8.2	9.8	10.2	地下水の取水率を示したもので、事業者の水源特性を表す指標	—	4101		
B104	施設利用率				%	(一日平均配水量/施設能力)×100	—	80.0	80.1	水道施設の効率性を判断する指標	高い方が望ましい	3019		

目標	分類	区分	番号	業務指標名	単位	計算式	26年度	27年度	28年度	指標説明	数値説明	旧コード
安定した水の供給	運営管理	施設管理	B105	最大稼働率	%	(一日最大配水量/施設能力) × 100	—	88.3	88.9	水道事業の施設効率を判断する指標で、100%に近い場合安定給水に問題があるといえる	—	3020
			B106	負荷率	%	(一日平均配水量/一日最大配水量) × 100	89.7	90.6	90.1	水道施設の効率性を判断する指標	高い方が望ましい	3021
			B107	配水管延長密度	km/km <sup>2</sup>	配水管延長/現在給水面積	14.5	14.5	14.6	配水管に給水管を接続するときの容易さを示したもの	高い方が望ましい	2007
			B108	管路点検率	%	(点検した管路延長/管路延長) × 100	6.6	5.6	5.8	年間で点検した管路延長の割合を示したもので、管路の健全性確保に対する執行度を表す指標	高い方が望ましい	5111
			B109	バルブ点検率	%	(点検したバルブ数/バルブ設置数) × 100	—	3.6	2.9	年間に点検したバルブ数の割合を示したもので、管路の健全性確保に対する執行度を表す指標	高い方が望ましい	新規
			B110	漏水率	%	(年間漏水量/年間配水量) × 100	0.01	0.01	0.02	配水量に対する漏水量の割合を示したもので、事業効率を表す指標	低い方が望ましい	5107
			B111	有効率	%	(年間有効水量/年間配水量) × 100	—	98.2	98.2	配水量に対する有効水量の割合を示したもので、事業の経営効率性を表す指標	高い方が望ましい	新規
			B112	有収率	%	(年間有収水量/年間配水量) × 100	97.5	97.1	97.1	年間配水量に対する有収水量の割合を示し、供給される水量がどの程度収益につながっているかを表す指標	高い方が望ましい	3018
			B113	配水池貯留能力	日	配水池有効容量/一日平均配水量	0.93	0.92	0.93	水道水をためておく配水池総容量が平均配水量の何日分あるかを示したもの	高い方が望ましい	2004
			B114	給水人口一人当たり配水量	L/日・人	(一日平均配水量 × 1,000)/現在給水人口	290	290	288	給水人口一人当たり一日何リットル配水したかを示したもので(節水型消費パターンへの促進度合いを表す)	低い方が望ましい	2002
			B115	給水制限日数	日	年間給水制限日数	0	0	0	1年間で何日給水制限をしたかを示したもので、給水サービスの安全性を表す指標	低い方が望ましい	2005
			B116	給水普及率	%	(現在給水人口/給水区域内人口) × 100	99.99	99.99	99.99	給水区域内で水道を使用している人の割合を示したもので、サービス享受の概況や地域性を表す	高い方が望ましい	2006
			B117	設備点検実施率	%	(点検機器数/機械・電気・計装機器の合計数) × 100	—	22.0	22.0	電気・計装機器等の合計数に対する点検機器数の割合を示したもので、管理の適正度を示すもの	高い方が望ましい	5110
	事故災害対策	施設管理	B201	浄水場事故割合	件/10年・箇所	10年間の浄水場停止事故件数/浄水場数	0.00	0.00	0.00	直近10年間で浄水場が事故により停止となった割合を示したもので、施設の信頼性を表す指標	低い方が望ましい	5101
			B202	事故時断水人口率	%	(事故時断水人口/現在給水人口) × 100	—	0.0	0.0	浄水場などの事故時において給水できない人口の割合を示し、事業体のシステムの融通性を表す指標	低い方が望ましい	2204
			B203	給水人口一人当たり貯留飲料水量	L/人	(配水池有効容量 ÷ 2 + 緊急貯水槽容量) × 1,000/現在給水人口	135	135	135	給水人口一人当たり何リットルの水が常時ためられているかを示したもので、事業体の災害対応度を示す	高い方が望ましい	2001
			B204	管路の事故割合	件/100km	管路の事故件数/管路延長/100	0.8	1.1	0.7	管路延長100kmに対する漏水などの管路事故件数の割合を示したもので管路の健全性を示す	低い方が望ましい	5103
			B205	基幹管路の事故割合	件/100km	基幹管路の事故件数/基幹管路延長/100	2.6	5.1	2.5	給水管を接続する配水管以外の口径の大きい管の事故(破裂、漏水など)の割合を示したもの	低い方が望ましい	2202
			B206	鉄製管路の事故割合	件/100km	鉄製管路の事故件数/鉄製管路延長/100	0.8	1.1	0.7	鉄製管路延長100kmに対する鉄製管路事故件数の割合を示したもので鉄製管路の健全性を示す	低い方が望ましい	5104
			B207	非鉄製管路の事故割合	件/100km	非鉄製管路の事故件数/非鉄製管路延長/100	0.0	0.0	0.0	非鉄製管路延長100kmに対する非鉄製管路事故件数の割合を示したもので非鉄製管路の健全性を示す	低い方が望ましい	5105
B208			給水管の事故割合	件/1,000件	給水管の事故件数/給水管数/1,000	0.8	1.0	1.7	給水管数1000件に対する給水管事故件数の割合を示したもので、給水管の健全性を示す	低い方が望ましい	5106	

目標	分類	区分	番号	業務指標名	単位	計算式	26年度	27年度	28年度	指標説明	数値説明	旧コード
安定した水の供給	運営管理	事故災害対策	B209	給水人口一人当たり平均断水・濁水時間	時間	$\Sigma(\text{断水・濁水時間} \times \text{断水・濁水区域給水人口}) / \text{現在給水人口}$	0.00	0.00	0.00	断水・濁水の給水人口に対する割合を示したもので、給水の安定度を表す	低い方が望ましい	5109
			B210	災害対策訓練実施回数	回/年	年間の災害対策訓練実施回数	—	1	1	1年間に実施した災害対策訓練の回数を示したもので、自然災害に対する危機対応性を表す	高い方が望ましい	新規
			B211	消火栓設置密度	基/km	消火栓数/配水管延長	5.1	5.0	5.0	配水管延長1km当たりに対する消火栓の設置数を示したものの	高い方が望ましい	5114
		B301	配水量1m3当たり電力消費量	kWh/m3	電力使用量の合計/年間配水量	0.21	0.21	0.22	1m3の水を送水するまでに要した電力消費量を示したもので、省エネルギー対策への取組み度合を表す	低い方が望ましい	4001	
		B302	配水量1m3当たり消費エネルギー	MJ/m3	エネルギー消費量/年間配水量	2.07	2.21	2.13	1m3の水を送水するまでに要した消費エネルギー量を示したもので、省エネルギー対策への取組み度合を表す	低い方が望ましい	4002	
		B303	配水量1m3当たり二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量	g・CO <sub>2</sub> /m3	(二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量/年間配水量) × 10 <sup>6</sup>	110	109	109	配水した水1m3当たり何gの二酸化炭素を排出したかを示すもので、環境保全への取組み度合を表す	低い方が望ましい	4006	
		B304	再生可能エネルギー利用率	%	(再生可能エネルギー設備の電力使用量/全施設の電力使用量) × 100	0.00	0.00	0.00	再生可能エネルギー(自己の水力発電、太陽光発電など)の使用量の割合を示したもので、環境負荷低減に対する取組み度合を表す	高い方が望ましい	4003	
		B305	浄水発生土の有効利用率	%	(有効利用土量/浄水発生土量) × 100	0.0	0.0	0.0	浄水発生土量に対する有効利用土量の割合を示すもので、環境保全への取組み度合を表す	高い方が望ましい	4004	
		B306	建設副産物のリサイクル率	%	(リサイクルされた建設副産物量/建設副産物発生量) × 100	95.4	100.0	100.0	水道工事で発生するアスファルトなどを廃棄処分せず再利用している割合を示したもので、環境保全への取組み度合を表す	高い方が望ましい	4005	
		施設整備	施設管理	B401	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率	%	[(ダクタイル鋳鉄管延長+鋼管延長)/管路延長] × 100	99.8	99.8	99.8	信頼性が高いとされるダクタイル鋳鉄管等の鉄製水道管の割合を示したもので、管路の母材強度に視点を当てた指標	高い方が望ましい
	B402			管路の新設率	%	(新設管路延長/管路延長) × 100	0.12	0.12	0.05	年間で新設した管路延長の割合を示したもので、管路整備度合を表す	高い方が望ましい	2107
	施設更新		B501	法定耐用年数超過浄水施設率	%	(法定耐用年数を超えている浄水施設能力/全浄水施設能力) × 100	0.0	0.0	0.0	耐用年数を超えた浄水施設能力の割合を示すもので、施設の老朽化度及び更新の取組み状況を表す指標	低い方が望ましい	2101
			B502	法定耐用年数超過設備率	%	(法定耐用年数を超えている機械・電気・計装設備などの合計数/機械・電気・計装設備などの合計数) × 100	52.0	20.0	20.0	耐用年数を超えた電気・機械設備数の割合を示すもので、機器の老朽度、更新の取組み状況を表す指標	低い方が望ましい	2102
			B503	法定耐用年数超過管路率	%	(法定耐用年数を超えている管路延長/管路延長) × 100	5.0	5.8	6.5	耐用年数を超えた管路延長の割合を示すもので、管路の老朽化度、更新の取組み状況を表す指標	低い方が望ましい	2103
			B504	管路の更新率	%	(更新された管路延長/管路延長) × 100	1.17	1.29	1.60	年間で更新した管路延長の割合を示すもので、信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表す指標	高い方が望ましい	2104
			B505	管路の更生率	%	(更生された管路延長/管路延長) × 100	0.00	0.00	0.00	年間で古い管の内面を補修した割合を示すもので、信頼性確保のための管路維持の執行度合いを表す指標	高い方が望ましい	2105
	事故災害対策		B601	系統間の原水融通率	%	(原水融通能力/全浄水施設能力) × 100	0.0	0.0	0.0	原水を融通して異なる浄水場へ送水できる水量の割合を示すもので、水運用の安定性、柔軟性、危機対応性を表す指標	高い方が望ましい	2206
			B602	浄水施設の耐震化率	%	(耐震対策の施された浄水施設能力/全浄水施設能力) × 100	2.6	2.6	2.6	高度な耐震化がなされている浄水施設能力の割合を示すもので、地震災害に対する信頼性・安全性を表す指標	高い方が望ましい	2207
			B602-2	浄水施設の主要構造物耐震化率	%	[(沈でんろ過を有する施設の耐震化浄水施設能力+ろ過のみ施設の耐震化浄水施設能力)/全浄水施設能力] × 100	—	—	—	沈でん池、ろ過池に対する耐震対策が施されている割合を示すもので、B602の進捗を表す指標	高い方が望ましい	新規
		B603	ポンプ所の耐震化率	%	(耐震対策の施されたポンプ所能力/耐震化対象ポンプ所能力) × 100	—	100.0	100.0	高度な耐震化がなされているポンプ施設能力の割合を示すもので、地震災害に対する信頼性・安全性を表す指標	高い方が望ましい	2208	
B604		配水池の耐震化率	%	(耐震対策の施された配水池有効容量/配水池等有効容量) × 100	35.9	46.7	68.5	高度な耐震化がなされている配水池容量の割合を示すもので、地震災害に対する信頼性・安全性を表す指標	高い方が望ましい	2209		

目標	分類	区分	番号	業務指標名	単位	計算式	26年度	27年度	28年度	指標説明	数値説明	旧コード			
安定した水の供給	施設整備	事故災害対策	B605	管路の耐震化率	%	(耐震管延長/管路延長)×100	13.5	13.2	13.3	導・送・配水管すべての管路の延長に対する耐震管の割合を示すもので、地震災害に対する安全性・信頼性を表す指標	高い方が望ましい	2210			
			B606	基幹管路の耐震化率	%	(基幹管路のうち耐震管延長/基幹管路延長)×100	—	69.7	69.5	基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する安全性・信頼性を表す指標	高い方が望ましい	新規			
			B606-2	基幹管路の耐震適合率	%	(基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長/基幹管路延長)×100	—	69.7	69.5	基幹管路の延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、B606を補足する指標	高い方が望ましい	新規			
			B607	重要給水施設配水管路の耐震管率	%	(重要給水施設配水管路のうち耐震管延長/重要給水施設配水管路延長)×100	—	72.7	70.1	重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震管延長の割合を示すもので、安全性・信頼性を表す指標	高い方が望ましい	新規			
			B607-2	重要給水施設配水管路の耐震適合率	%	(重要給水施設配水管路のうち耐震適合性のある管路延長/重要給水施設配水管路延長)×100	—	82.3	72.1	重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、B607を補足する指標	高い方が望ましい	新規			
			B608	停電時配水量確保率	%	(全施設停電時に確保できる配水能力/一日平均配水量)×100	—	148.2	149.1	平均配水量に対する全施設停電時に確保できる配水能力の割合を示すもので、広域停電時等における危機対応性を表す指標	高い方が望ましい	2216			
			B609	薬品備蓄日数	日	平均塩素剤貯蔵量/塩素剤一日平均使用量	38.2	40.9	44.4	浄水場で使用する薬品が何日分貯蔵してあるかを示すもので、災害に対する危機対応力を表す指標	—	2211			
			B610	燃料備蓄日数	日	平均燃料貯蔵量/一日燃料使用量	1.7	1.9	1.9	浄水場などで使用する発電用の燃料が何日分貯蔵してあるかを示すもので、災害時の対応性を表す指標	—	2212			
			B611	応急給水施設密度	箇所/100km	応急給水施設数/現在給水面積/100	23.7	25.2	25.2	緊急時に応急給水できる貯水拠点が給水区域100km2当たり何箇所あるかを示すもので、飲料水の確保のしやすさを表す指標	高い方が望ましい	2205			
			B612	給水車保有度	台/1,000人	給水車数/現在給水人口/1000	0.01	0.01	0.01	稼働できる給水車が給水人口1,000人当たり何台保有されているかを示すもので、応急給水活動の対応性を表す指標	高い方が望ましい	2213			
			B613	車載用の給水タンク保有度	m3/1,000人	車載用給水タンクの容量/現在給水人口/1,000	0.24	0.24	0.24	給水人口1,000人当たりの車載用給水タンク容量を示すもので、応急給水活動の対応性を表す指標	高い方が望ましい	2215			
			健全な事業経営	財務	健全経営	C101	営業収支比率	%	[(営業収益-受託工事収益)/(営業費用-受託工事費)]×100	106.1	109.6	107.6	収益性を見る際の指標 比率が高いほど営業利益率が高い	高い方が望ましい	3001
						C102	経常収支比率	%	[(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)]×100	114.6	117.6	116.5	収益性を見る際の指標 比率が高いほど経常利益率が高い	高い方が望ましい	3002
C103	総収支比率	%				(総収益/総費用)×100	102.1	119.5	117.8	総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すもので、収益性を表す指標	高い方が望ましい	3003			
C104	累積欠損金比率	%				[累積欠損金/(営業収益-受託工事収益)]×100	0.0	0.0	0.0	事業の経営状況の健全性を表す指標	低い方が望ましい	3004			
C105	繰入金比率(収益的収入分)	%				(損益勘定繰入金/収益的収入)×100	0.2	0.3	0.3	収益的収入における繰入金への依存度を示すもので、事業の経営状況を表す指標	低い方が望ましい	3005			
C106	繰入金比率(資本的収入分)	%				(資本勘定繰入金/資本的収入)×100	14.4	14.7	2.9	資本的収入における繰入金への依存度を示すもので、事業の経営状況を表す指標	低い方が望ましい	3006			
C107	職員一人当たり給水収益	千円/人				(給水収益/損益勘定所属職員数)/1,000	75,240	87,781	90,756	損益勘定所属職員一人当たりの生産性を表す指標	高い方が望ましい	3007			
C108	給水収益に対する職員給与費の割合	%				(職員給与費/給水収益)×100	10.3	9.1	8.6	水道事業の収益性を表す指標	低い方が望ましい	3008			
C109	給水収益に対する企業債利息の割合	%				(企業債利息/給水収益)×100	1.8	1.7	1.6	水道事業の効率性及び財務安全性を表す指標	低い方が望ましい	3009			
C110	給水収益に対する減価償却費の割合	%				(減価償却費/給水収益)×100	34.2	34.2	35.4	水道事業の収益性を表す指標	低い方が望ましい	3010			

目標	分類	区分	番号	業務指標名	単位	計算式	26年度	27年度	28年度	指標説明	数値説明	旧コード
健全な事業経営	財務	健全経営	C111	給水収益に対する建設改良のための企業債償還元金の割合	%	$(\text{建設改良のための企業債償還金} / \text{給水収益}) \times 100$	6.6	6.0	5.5	企業債償還元金が経営に与える影響を表す指標	低い方が望ましい	3011
			C112	給水収益に対する企業債残高の割合	%	$(\text{企業債残高} / \text{給水収益}) \times 100$	81.6	75.6	87.0	企業債残高が規模及び経営に及ぼす影響を表す指標	低い方が望ましい	3012
			C113	料金回収率	%	$(\text{供給単価} / \text{給水原価}) \times 100$	105.3	106.4	105.6	水道事業の経営状況の健全性を表す指標	高い方が望ましい	3013
			C114	供給単価	円/m3	給水収益/有収水量	148.9	148.8	147.5	1m3の販売価格がいくらをみる指標	低い方が望ましい	3014
			C115	給水原価	円/m3	$[\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯事業費} + \text{長期前受金戻入})] / \text{年間有収水量}$	141.4	139.9	139.6	1m3を販売するのにいくらの費用を要するかをみる指標	低い方が望ましい	3015
			C116	1か月10m3当たり家庭用料金	円	1ヶ月10m3当たり家庭用料金	907	907	907	標準的な家庭における水使用量(10m3)に対する料金契約者の経済的利便性を表す指標	低い方が望ましい	3016
			C117	1か月20m3当たり家庭用料金	円	1ヶ月20m3当たり家庭用料金	2,095	2,095	2,095	標準的な家庭における水使用量(20m3)に対する料金契約者の経済的利便性を表す指標	低い方が望ましい	3017
			C118	流動比率	%	$(\text{流動資産} / \text{流動負債}) \times 100$	670.0	644.9	704.5	水道事業の財務の安全性を見る指標 100%以下は不良債務が発生している	高い方が望ましい	3022
			C119	自己資本構成比率	%	$[(\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}) / \text{負債} \cdot \text{資本合計}] \times 100$	88.6	89.4	88.9	財務の健全性を示す指標	高い方が望ましい	3023
			C120	固定比率	%	$[\text{固定資産} / (\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益})] \times 100$	97.5	97.2	97.3	自己資本がどの程度固定資産に投下されているかを見るものであり、財務の安定性を表す指標	高い方が望ましい	3024
			C121	企業債償還元金対減価償却費比率	%	$(\text{建設改良のための企業債償還元金} / \text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}) \times 100$	28.1	25.2	22.5	投下資本の回収と再投資とのバランスを見る指標	低い方が望ましい	3025
			C122	固定資産回転率	回/年	$(\text{営業収益} - \text{受託工事収益}) / [(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) / 2]$	0.14	0.14	0.14	固定資産が期間中に営業収益によって何回回収されたかを示す指標	高い方が望ましい	3026
			C123	固定資産使用効率	m3/万円	給水量/有形固定資産/10,000	8.7	8.6	8.4	給水量の固定資産に対する値で大きいほど施設が効率的であることを意味する	高い方が望ましい	3027
			C124	職員一人当たり有収水量	m3/人	年間総有収水量/損益勘定所属職員数	471,000	590,000	615,000	1年間における損益勘定職員一人当たりの有収水量を示し、水道サービスの効率性を表す指標	高い方が望ましい	3109
	C125	料金請求誤り割合	件/1,000件	誤料金請求件数/料金請求件数/1,000	—	0.22	0.24	料金請求1,000件に対する誤り料金請求件数を示し、料金関連業務の適正度を表す指標	低い方が望ましい	5005		
	C126	料金収納率	%	$(\text{料金納入額} / \text{調定額}) \times 100$	—	90.4	90.8	年度末での収納割合を示し、経営状況の健全性を表す 3月検針分は4月納期のため未納となる	高い方が望ましい	5006		
	C127	給水停止割合	件/1,000件	給水停止件数/給水件数/1,000	15.2	14.3	17.3	給水件数1,000件に対する給水停止件数の割合を示し、未納状況の度合いを見る指標	低い方が望ましい	5007		
	組織・人材	人材育成	C201	水道技術に関する資格取得度	件/人	職員が取得している水道技術に関する資格数/全職員数	—	1.28	1.48	職員が一人当たり持っている水道技術に関する資格の件数の割合を示したもの	高い方が望ましい	3101
			C202	外部研修時間	時間/人	$(\text{職員が外部研修を受けた時間} \times \text{受講人数}) / \text{全職員数}$	6.1	3.0	4.1	職員一人当たりの外部研修の受講時間を示し、技術継承及び技術向上への取組み状況を表す指標	高い方が望ましい	3103
			C203	内部研修時間	時間/人	$(\text{職員が内部研修を受けた時間} \times \text{受講人数}) / \text{全職員数}$	1.0	1.7	1.2	職員一人当たりの内部研修の受講時間を示し、技術継承及び技術向上への取組み状況を表す指標	高い方が望ましい	3104
			C204	技術職員率	%	$(\text{技術職員総数} / \text{全職員数}) \times 100$	50.6	48.8	50.6	技術職員的全職員に対する割合を示し、技術面での維持管理体制を表す指標	—	3105

目標	分類	区分	番号	業務指標名	単位	計算式	26年度	27年度	28年度	指標説明	数値説明	旧コード
健全な事業経営	組織・人材	人材育成	C205	水道業務平均経験年数	年/人	全職員の水道業務経験年数/全職員数	16.5	14.7	15.1	職員が平均何年水道業務に携わっているかを示し、人的資源としての専門技術の蓄積度合いを表す指標	—	3106
			C206	国際協力派遣者数	人・日	Σ(国際協力派遣者数×滞在日数)	0	0	0	水道技術等の協力を行うため海外派遣を行った取り組みについて示し、国際協力への関与の度合いを表す	高い方が望ましい	6001
			C207	国際協力受入者数	人・日	Σ(国際協力受入者数×滞在日数)	0	0	0	水道事業発展のため、海外水道関係者の受け入れの取り組みについて示し、国際協力への関与の度合いを表す	高い方が望ましい	6101
		業務委託	C301	検針委託率	%	(委託した水道メータ数/水道メータ数)×100	99.6	99.5	100.0	検針業務を委託した割合を示し、業務委託の度合いを表す	—	5008
			C302	浄水場第三者委託率	%	(第三者委託した浄水場能力/全浄水場能力)×100	0.0	0.0	0.0	浄水場の運転管理等を法に基づき第三者委託した割合を示したもの	—	5009
		お客様とのコミュニケーション	情報提供	C401	広報誌による情報の提供度	部/件	広報誌などの配布部数/給水件数	0.02	0.03	0.02	広報誌配布部数の給水件数に対する割合を示すもので、お客様への事業内容の公開度合いを表す指標	高い方が望ましい
	C402			インターネットによる情報の提供度	回/年	ウェブページへの掲載回数	—	17	33	インターネットによる情報発信回数を表し、お客様への事業内容の公開度合いを表す指標	高い方が望ましい	新規
	C403			水道施設見学者割合	人/1,000人	見学者数/現在給水人口/1,000	0.19	0.20	0.00	給水人口1,000人当たりの水道施設見学者数を示し、お客様との双方向コミュニケーションの推進度合いを表す指標	高い方が望ましい	3204
	意見収集		C501	モニタ割合	人/1,000人	モニタ人数/現在給水人口/1,000	0.00	0.00	0.00	給水人口1,000人当たりのモニタ人数の割合を示し、お客様との双方向コミュニケーションの推進度合いを表す指標	—	3202
			C502	アンケート情報収集割合	人/1,000人	アンケート回答人数/現在給水人口/1,000	0.00	0.00	0.00	給水人口1,000人当たりのアンケート回答人数の割合を示し、お客様との双方向コミュニケーションの推進度合いを表す指標	高い方が望ましい	3203
			C503	直接飲用率	%	(直接飲用回答数/直接飲用アンケート回答数)×100	—	—	—	消費者の何%が水道水を直接飲用しているかを示し、水道水の飲み水としての評価を表す指標	高い方が望ましい	3112
			C504	水道サービスに対する苦情対応割合	件/1,000件	水道サービス苦情対応件数/給水件数/1,000	—	0.17	0.05	給水件数1,000件当たりの水道サービス苦情件数を示し、水道サービス向上に対する取り組み状況を表す指標	低い方が望ましい	3205
			C505	水質に対する苦情対応割合	件/1,000件	水質苦情対応件数/給水件数/1,000	—	0.19	0.15	給水件数1,000件に対する水質に関する苦情割合を示し、水道水質の向上に対する取り組み状況を表す指標	低い方が望ましい	3206
			C506	水道料金に対する苦情対応割合	件/1,000件	水道料金苦情対応件数/給水件数/1,000	—	0.08	0.02	給水件数1,000件当たりの水道料金苦情件数の割合を示し、お客様の水道料金への満足度を表す指標	低い方が望ましい	3207

※番号欄を「水色」で網掛けされた部分は、2016年の水道事業ガイドライン(規格)改正により新たに追加された項目となります。

※番号欄を「黄色」で網掛けされた部分は、2016年の水道事業ガイドライン(規格)改正により算定式が変更となり、PI値に大きな影響を及ぼす変更があった項目となります。

※他の事業体とは地域の特性、水源などの背景が異なるため、数値を単純比較することはできません。

※C121について、H29.5.23付正誤表にて算定式が変更されたためH26、H27のPI値は再計算したのになっております。